

マツダ真空管 6E5

用途構造 同調指示管

特性概要 6E5 はラジオ受信機，測定器等の入力信号の大きさを指示する傍熱型の同調指示管であります。この 6E5 は小さい入力信号に適しております。

カソード 傍熱型(オキサイド被覆・等電位)

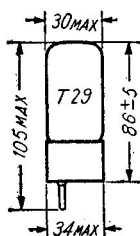
ヒーター電圧 6.3V

ヒーター電流 0.3A

バルブ T-29

ベース JIS-6B

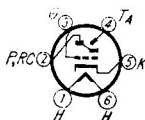
外形



電極接続

- 1 ヒーター
- 2 プレート
- 3 グリッド
- 4 ターゲット
- 5 カソード
- 6 ヒーター

ベース接続



最大定格

ヒーター電圧	5.7V~6.9V
プレート供給電圧	最大250V
ターゲット電圧	最大250V
ターゲット電圧	最小150V
ヒーター・カソード間電圧	最大90V

動作例

ヒーター電圧	6.3V	6.3V
プレート, ターゲット供給電圧	125V	250V
プレート直列抵抗	1M Ω	1M Ω
ターゲット電流*	0.8mA	2mA
プレート電流*	0.1mA	0.2mA
グリッド電圧		
(シャドウの角度が0度の時)	-4.0V	-7.0V
(" " 90°)	0V	0V

* 3極部グリッド電圧が0Vの時

使用法

普通は図のような回路にて使用します。動作原理は、AVC電圧が同調に依って負に深く偏倚せられるので、3極部の I_p は減少する。 I_p が減少するとR中の電圧降下が小となり、ターゲットとプレートに接続せられた制御電極との電位差が小となり、カソードからターゲットの螢光面に飛び出す電子を制御する力が弱まり、影の開角が狭くなる。ゆえにAVC電圧がバリコンの回転角に応じて同調曲線を描くと同様に影の開角が変化するので逆に開角の最小点から同調曲線の山の最大点を知ることができます。

3極部はグリッド電流が流れないのでAVC回路には何も影響を及ぼしません。図は6Z-DH3Aのカソードを接地してあるが抵抗を入れて偏倚電圧を取っても1V位であればそのままでさしつかえありません。大きな偏倚電圧をとるようであったら6E5のカソードは第2検波管のカソードに接続しなければなりません。この場合はターゲット電流の影響も考えて固定偏倚とする方がよい。

6E5, 6F6-GT

